



益姫ゆかりの文書や古写真などを並べた企画展
「お姫さまのひみつ」＝3日、熊本市中央区

細川斉護の正室 文書や写真31点

益姫の「ひみつ」垣間見て

熊本市

江戸時代、熊本藩第10代藩主・細川斉護に嫁いだ益姫の没後150年を記念した企画展「お姫さまのひみつ」が3日、熊本市中央区のくまもと文学・歴史館で始まった。11月16日まで。

益姫（1806～75年）は広島藩主・浅野^{なり}齊賢^{もり}の娘で、二十歳で斉護と結婚。江戸の屋敷で暮らし、斉護の死後に出家して顕光院と号した。文学・歴史館の敷地には、晩年に顕光院が住んだ砂取細川邸があった。現在は庭園が残る。

会場には、身近な親戚との交際の作法について細かく記された文書や晩年の古写真など31点が並ぶ。結婚の準備をつづった文書「御縁組一件帳」には、益姫の食べ物の好き嫌いを尋ねたやりとりが残っており「姫」に対する細川家の気遣いがうかがえる。

19日午後1時半から担当学芸員の深瀬はるかさんによる講座、26日午後1時半からは、崇城大工学部建築学科の小粥^{おがいまう}祐子准教授による講演会がある。いずれも事前に申し込む。定員100人。無料。同館☎096(384)5000。（井田真太郎）